



病気と予防のお話し ～JCHO 船橋中央病院から～

第22回 脱腸（鼠径ヘルニア）の治療について

小児外科 佐藤嘉治先生

海神4・5丁目の皆様、船橋中央病院で小児から成人まで多くの鼠径ヘルニア治療を手掛けております佐藤嘉治です。

脱腸（正式には鼠径ヘルニア）は足の付根付近にあるお腹の筋肉の一部が弱くなり穴となり、お腹の中にある臓器が脱出して膨らんだ状態です。

鼠径ヘルニアの穴はお薬や筋トレなどでは治らないため手術が必要となります。ただし膨らみが立ったときだけで不快感や痛みなどの症状がなければ急いで手術の必要はありません。非常に稀ですが横になっても自然に膨らみが戻らず痛みが強いときは嵌頓（かんとん）と言って脱出した臓器が締め付けられ血流障害を起こす可能性もあるため受診が必要です。

手術方法は年齢や既往症により異なります。小児では成長とともに筋肉も発達するため穴を閉じるだけで十分ですが、安全に行うために全身麻酔が必要となります。成人では穴を閉じるだけでは不十分のため医療用補強剤を筋肉の弱い部分に埋め込む必要があります。全身麻酔がかけられる方であれば傷が小さくて術後回復の早い腹腔鏡手術を、既往症などで全身麻酔や腹腔鏡手術の適応とならない方は脊椎麻酔や局所麻酔による鼠径部切開手術をおすすめしております。

当院外科では、それぞれの方法に精通した医師が執刀いたしますので安心して治療をお受けいただけます。私の専門は小児外科と成人鼠径ヘルニア腹腔鏡手術です。小児は当院周産期医療センターの2kg以上の赤ちゃんから手術をしており、成人は県内でも数少ない腹腔鏡手術技術認定医として治療にあたっております。